

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 美術館展示費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

岐阜県美術館 総務部 管理調整係 電話番号：058-271-1313

E-mail：c21801@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 133,480 千円 (前年度事業費：134,389 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その 他	県 債	一般 財源
前年度	134,389	38,605	0	17,531	0	0	1,000	0	77,253
要求額	133,480	41,144	0	10,544	0	0	5,139	0	76,653
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

岐阜県美術館の収蔵品を展示する所蔵品展示、所蔵品による企画展、国内外の作品による多彩なテーマの企画展等を開催するための経費を措置する。

令和4(2022)年度は岐阜県美術館が11月3日に開館40周年を迎えるため、それを記念して郷土ゆかりの美術家である前田青邨の大規模な回顧展をはじめ、50代から独学で油絵を学び自由奔放に制作した塔本シスコの巡回展、所蔵品から名品を選びすぐって紹介する企画展、アートとテクノロジーの先験的な融合を紹介する現代美術展などを開催し、県民のニーズに応えると共に、コロナ禍社会のもと、新たな生活様式における美術館の重要性・必要性を広く伝える。

(2) 事業内容

ア 所蔵品展示 展示室1にて展示替を行う。

(開館40周年記念展開催等のため、変則的に約6期に分けて展示)

	第1期	第2期	第3期
会期	4月～7月	8月～12月	1月～3月
展示替	4/1-4, 5/30, 6/27	7/23-29, 9/12, 10/1-3	12/26, 1/5-10, 3/29

イ 改修後の展示室2の活用(独自企画展)

① アートまるケットに関わる展示事業(エを参照)

令和5年1月17日(火)～令和5年3月19日(日) 54日間

② 「IAMAS ARTIST FILE #08」展(仮称)

令和4年7月5日(火)～令和4年9月11日(日) 60日間

ウ 企画展 展示室3他にて（巡回展、独自企画展）

①「塔本シスコ展」

令和4年4月23日（土）～令和4年6月26日（日） 56日間

②「開館40周年記念 前田青邨展」

令和4年9月30日（金）～令和4年11月13日（日） 39日間

③「開館40周年記念 名品ってナンヤローネ 岐阜県美術館名品尽くし」（仮称）

令和4年7月30日（金）～令和5年3月19日（日） 192日間

エ アートまるケット事業

①アートまるケット2022展示事業「てとてのびじゅつ」（仮）

令和5年1月17日（火）～令和5年3月19日（日） 54日間

②アートまるケット事業「おうちに居ながラー美術館」の継承・展開

令和4年4月～令和5年3月まで 事業継続

企画紹介展示：令和5年1月17日（火）～3月19日（日） 54日間

③アートコミュニケーター（愛称「～ながラー」）活動事業

令和4年4月～令和5年3月まで 事業継続

令和4年11月～令和5年2月まで 次年度新規～ながラー募集事業

④アーティスト・イン・ミュージアム【AiM】事業

令和4年秋、令和5年1月以降の2回開催

・作家が美術館に滞在し公開制作と作品展示を行う。

オ 企画展準備費

① 開館42周年記念事業「山本芳翠・ルドン展」のための作品調査。

② 令和5年度企画展の準備費。

カ 11月3日文化の日秋祭り事業の開催

（3）県負担・補助率の考え方

県民が等しく文化芸術に関わる機会を創出するものであり、県の負担は妥当である。

（4）類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	（千円）	事業内容の詳細
報償費	1,266	講師謝金
旅費	7,736	打ち合わせ旅費、研修旅費、講師旅費
需用費	13,860	展示用消耗品費、会議費、印刷製本費、光熱水費
役務費	2,997	通信運搬費、保険料
委託料	54,981	作品輸送展示作業、パネル等ディスプレイ作成他
その他	52,640	使用料、備品購入費等
合計	133,480	

決定額の考え方

4 参考事項

（1）事業主体及びその妥当性

県有施設の主催事業に要する経費を措置するものであり、県の関与が妥当である。

事業評価調査（県単独補助金除く）

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業 |

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 県民が文化芸術に親しむ機会を充実させる。
 優れた芸術に触れて学ぶ機会を提供し、新しい文化の担い手を育成する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標	
					(R)※	達成率
① 観覧者数 (無料観覧者含む)		46,024	44,622	73,274	73,274	%
②						%

○指標を設定することができない場合の理由

展覧会は内容や開催規模、時期によって動員数に大きな差があり、年度毎に開催本数や期間も異なるため、年度毎の展示計画に応じた目標設定となる。ついては、終期目標の設定は困難であるため、便宜的にR4年度目標を終期目標とする。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>○取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所蔵品による企画展「所蔵品セレクション～新収蔵品を中心に」(4/1～7/16)、「土の造形 伊藤慶二」(7/6～8/19)、「寄贈記念 守洞春展」(7/27～11/21)、「20世紀美術」(7/27～11/21)、「精霊たちのいるところ アボリジニの美術」(7/25～12/5、途中で展示替の休室期間あり)、「円空大賞の20年～コレクションでふりかえる」(11/27～3/27)、「版画：ルドンを中心に」(11/27～3/27)、「ぎふの日本画 京で学ぶ」(12/16～3/27) ・企画展「素材転生—Beyond The Material」(4/24～6/26)、「ミレーから印象派への流れ」(9/13～10/21)、「ab-sence/ac-ceptance 不在の観測」(9/23～11/28)、「IAMAS ARTIST FILE #07 木村悟之／萩原健一／堀井哲史」(12/21～R4/3/6)、「new-fashioned：日本洋画 美の系譜」(12/10～R4/3/13) ・郷土ゆかりの若手作家による公開制作と作品展示 「アーティスト・イン・ミュージアム AiM Vol.10 田中翔貴」(4/28～7/16)、 「アーティスト・イン・ミュージアム AiM Vol.11 横山奈美」(11/12～R4/1/23) ・「アートまるケット おうちに居ながら美術館 拡張現実で収蔵作品鑑賞」(年間を通じてウェブ上で実施、新規に撮影した作品を順次公開) <p>○成果</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大対策のため、令和3年度も、当初予定されていた休館以外に、長期にわたる緊急の臨時休館の措置が取られた(令和3年8月末時点で、5/25～6/20、8/20～9/12の2回にわたって臨時休館)。5～6月休館に際して、開催中の独自企画展「素材転生」と「アーティスト・イン・ミュージアム AiM Vol.10 田中翔貴」は、出展中の美術家の厚意と協力を得て、それぞれ会期を延長し、鑑賞を希望する来館者への配慮とした。8～9月休館に際しては、巡回展である「ミレーから印象派への流れ」の会期終了日は変更できず、会期が</p>
-------	--

	短縮されることとなった。アフターコロナの新しい生活様式に配慮しながら、企画展の開催や関連イベントにおける感染症対策を行った。また継続して、県内教育機関、福祉施設等との連携を重視し、活動に生かした。
令和3年度	
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 2	美術館は県民のニーズに答えて美術品を展示し鑑賞の場を提供するところである。郷土ゆかりの美術家から国内外の著名な作家まで様々な視点から展覧会を行い、広く県民の要望に答えている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	コロナ禍の状況でも開館時には来館者が途切れず、社会において美術館が求められる役割を十分に果たしている。来館者へは、万全な感染症対策によって、安心できる状況での美術鑑賞の機会を提供している。また事業の一部オンライン化によって、来館できない層へも配慮している。館内外で行われる関連事業や展示等についても、事前申込制やプログラムの工夫で密を避けつつ実施し、参加者から好評を得ている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 1	通常年間4本の企画展と8回の展示替による所蔵品展示を行う。常に新しい視点での展示紹介を心掛けるとともに、所蔵品の活用や、新聞社や企業の協力協賛を得て内容、広報共に充実させる努力を行っている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項
<p>新型コロナウイルス感染症拡大対策によって、頻繁に臨時休館を強いられる状況下で、事業の突然の中止や変更に対応するため、スタッフの負担は非常に大きい。もともと館内外での活動は事業見直しで増やさない予定であったが、レジデンス事業</p>

が急に追加されたことでスタッフ数は日常的に足りない現状が続いている。また、リニューアル後展示室が拡張しており、その分の展示にも以前よりも経費がかかる。水害による作品の緊急避難にかかる美術品管理（作品の移動、収蔵庫内での整理、燻蒸など必要な措置）のコストを優先したために、日常的な美術品管理に経費をかけられず、しわ寄せが生じている。さらに人件費や輸送費、展示等にかかる資材費などを含め、企画費等が高騰しており、大規模企画展を行うためには予算の充実が必須である。

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

美術館の魅力を引き続き広く県民に周知するべく、郷土ゆかりの美術家の大規模な回顧展を行うと共に、所蔵品から名品を選びすぐれた展示を長期展開し、美術館コレクションの質の高さをアピールする。青少年美術展、ぎふ美術展等の県主催の事業に協力する。美術作品の紹介から作家の制作体験、アートコミュニケーターによるアートへの関わり方の新たな提案まで、新しい時代の美術館の幅広いあり方を提案していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【 課 】
組み合わせる理由や期待する効果 など	